

農業経営の未来戦略

—六次産業化の進展と展開—

2013. 12. 2

担当：長命洋佑

本日の内容

1. 6次産業化は必要なのか？
2. 6次産業化の展開と課題

本講義の内容

1. 6次産業化は必要なのか？
2. 6次産業化の展開と課題

六次産業化への期待

- 地域農産物の付加価値の増大
- 地域雇用の創出
- 地域経済の活性化
- 農地を含む地域農業資源の維持・保全

農業の特質

● 技術的特質

生命現象の利用（直接に製造はできない）
作業・工程の順序の入れ替えが困難性
気象等の自然条件に大きな影響を受ける

● 商品的特質

腐りやすく、潰れ安い
大きさや重量等が不揃い（規格化の困難性）
最寄品（日常的に高頻度で購入される）

● 主体的特質

先進国では一般に家族経営が大宗を占める

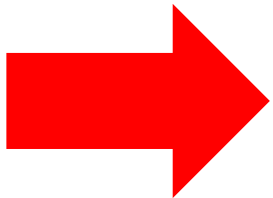
技術的特質をめぐる3つの変化

- ①技術の機械化・施設化・装置化が進み、経営規模の大きい農業経営に有利な**技術的条件(規模の経済性)**が形成されてきている。
- ②畜産・園芸において、特に施設化・装置化が進み、農産物生産の季節性が軽減され、**周年生産**が可能となったこと。このことにより、農業経営における**農繁期・農閑期**の格差が軽減され、農業従事者の周年就業の技術的条件が形成された。このような変化のなかで、「**同時並列的作業(いわゆる流れ作業)**」が可能になった。

技術的特質をめぐる3つの変化

③作業の機械化・施設化、栽培・飼育技術の進歩によって、より高度な技能が求められてきている一方で、作業従事者間で**作業の能率や精度に関わる標準化**が可能となってきたおり、管理(コントロール)が容易となってきた。

- ・規模の経済性の作用
- ・周年就業
- ・作業の標準化の促進



商品的特質をめぐる3つの変化

- ①多くの農作物によって宿命とされてきた生産の季節性が軽減・解消され、周年生産・周年供給の可能性が高まってきている。
- ②農業をめぐる近年の国際化、グローバル化の進展によって、輸入による農作物の種類が増加・多様化が進んでいる。
- ③食の安全・安心に対する国民の意識が高まるなかで、食料(食品)の安全性の重視を基本においた食料(食品)生産に大きくシフトしてきている。

主体的特質をめぐる変化

大・中・小規模の農業経営が並存するというこれまでの農業構造に変化が生じ、**少数の大規模な農業経営と多数の中・小規模の農業経営**に「2極分化」する傾向が強まってきている。

さらに、経営規模を軸とした2極分化の方向に加え、経済的に意義の異なる2つの方向の計4つの軸に沿った2極分化が進んでいる。

主体的特質をめぐる4つの変化

①これまでは、農業経営の大半を家族労働力に依存する家族経営が占めていた。

⇒労働力の一部、あるいはその大半を雇用労働力に依存する**企業的な農業経営体**が増加してきている。

②農業経営においては経済的、技術的に農地や労働力が重要な役割を果たしてきたが、**資本の役割とその地位が大きい企業的農業経営体**が増加しつつある。

主体的特質をめぐる4つの変化

③これまでの家族経営とは経営形態の異なる「**農家以外の事業体**（経営耕地面積が10a以上または農産物が年間15万円以上の農業を営む世帯[農家]以外の**事業体**）」といわれる農業経営が、伝統的な家族経営のなかから登場してきている。

④一部の農業経営が、加工食品の生産、農産物の加工食品の直売などを行う**農業経営の多角化傾向**が強まってきている。

地域産業振興に資する 六次産業化の課題と方向

新事業創設に当たって考察すべき問題の所在

我々の周りには様々な農業由来の食品素材が存在するが、それらの素材は、社会的にどのように生産されるのか。

その時、地域や農地とはどのように関係しているのか。

また、どのような主体が介在し、関係しているのか。

各主体の経済・経営的特質や主体間の関係はどうか。

各主体や関連産業の会計問題をどう考えるか。

ミクロ・サイド： 当該個別経営と関連農家の維持・発展

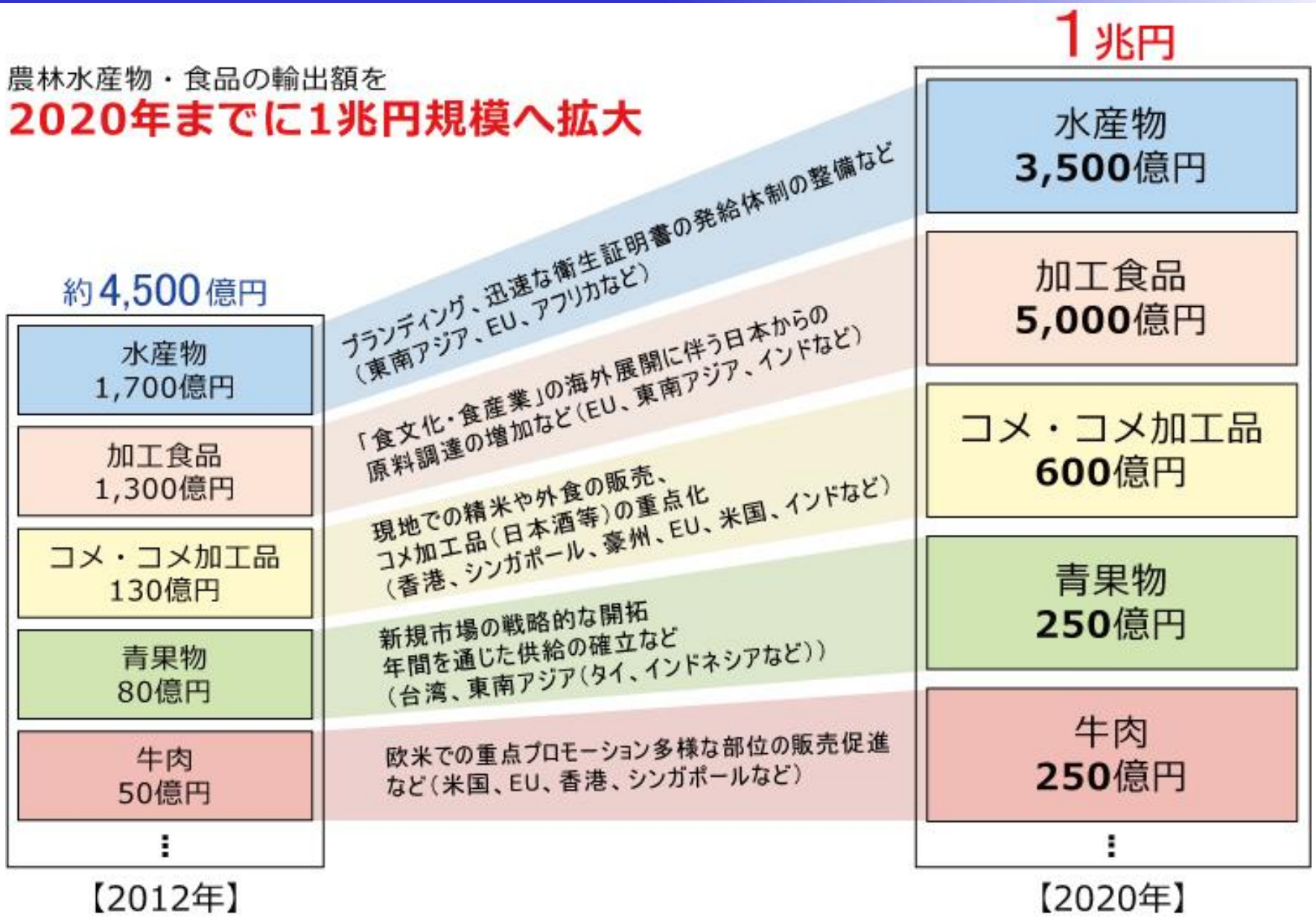
マクロ・サイド： 地域資源(特に農地)の維持・保全

考察に際して考慮すべき諸論点

- 加工プラントや関連企業の規模
- 土地との関わり(生産過程全体)
- 最終製品とテロワーとの関連(センサリー評価の可能性)
- 地理的限定性の有無と要因
- 生産に関する時間的長さ
- 農業生産段階における最終製品の品質へのこだわり
- 農業生産段階と最終生産物生産段階との関連性
- 最終生産物の品格(品質・品位)と農業生産物との関連
- 各段階における市場状態や取引の方法

六次産業の展開

農林水産物・食品の輸出額を
2020年までに1兆円規模へ拡大



【2012年】

【2020年】

六次産業化には、どのようなもの
(商品・分野) があるでしょうか？

6次産業化をとりまくキーワード

- ① 農業の総合産業化
- ② 直売活動
- ③ グリーン・ツーリズム・都市と農村の交流
- ④ 地域内発型アグリビジネス
- ⑤ 女性起業
- ⑥ 農商工連携
- ⑦ 経営の多角化・多就業化

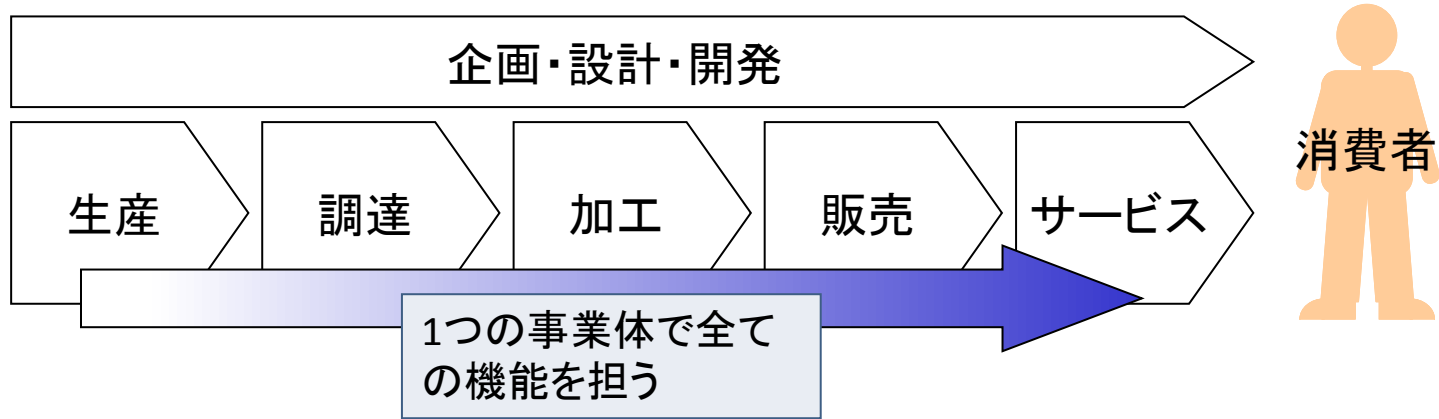
六次産業化の展開

どういった六次化の展開が存在するのか？

6次産業化のタイプ: 融合型

これまで蓄積してきた様々な資源を活用しながら、
他の産業に参入・移行

一般的に言われる6次産業化に加え、
農外企業の農業参入もこのタイプとなる。



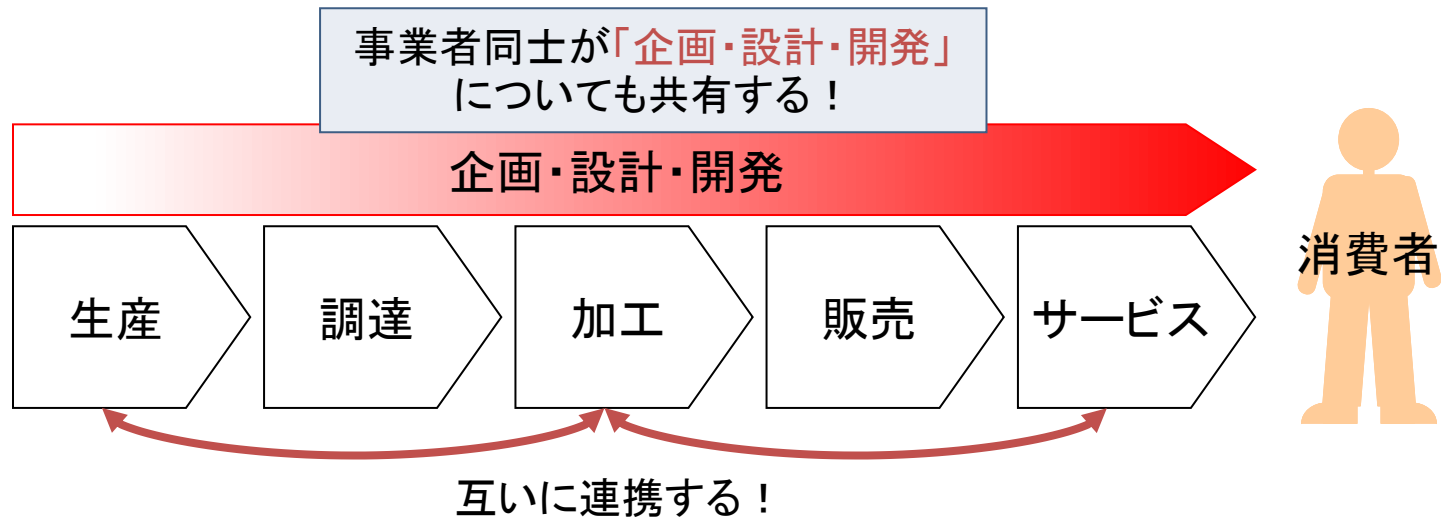
⇒2次・3次産業と競合することになる。

資料:株式会社三菱総合研究所「6次産業化実践論6次産業化概論パート (2) 6次産業化の必要性と展開パターン」
を参照に一部筆者改正。

6次産業化のタイプII: 連携型

これまで蓄積してきた資源に加えて、他者（他社）の資源を活用し、事業（商品）の企画・設計・開発に関与・参画するタイプ。

例えば、農商工連携が典型的



資料:株式会社三菱総合研究所「6次産業化実践論6次産業化概論パート (2) 6次産業化の必要性と展開パターン」を参照に一部筆者改正。

融合型の課題、連携型の課題とは・・・？

融合型の6次産業化
連携型の6次産業化

それぞれ、成功している事例はあるか？
そうした事例では何が成功要因か？

また、うまくいっていない事例はあるか？
そうした事例の失敗要因は何か？

事例の紹介
株式会社 ぶどうの木
URL:<http://www.budoo.co.jp/>

ぶどうの木

●立地条件：強みをより強みに

標高が比較的高く、寒暖の差が激しい地域である。また、陽当たりも非常に良くぶどうを栽培するには、条件の良い地域であり、景観も非常に良い。

金沢駅から車で20～25分、最寄り駅(JR森本駅)からは車で5分であり、交通の便に恵まれている。

●ぶどうの生産状況：弱みの克服

ぶどうの収穫時期は短い(7-11月)

⇒多種多様な品種の栽培

収穫時期の長期化

ぶどうは、観賞用のツーリズム資源

●ぶどうの栽培

⇒【喫茶店】への展開

⇒ぶどうを利用した【商品販売】の強化

（ぶどうを含め、ぶどう以外の果物を利用し、
商品開発）

※多種多様な商品造りと販売プロモート

（利用する果物は、地元の農産物にはこだわらない）

例えば・・・バターサンド（干しぶどう⇒ヨルダン）

- レストラン開始 : 昼食にはバイキング
 - ・ イタリアン (←メイン)
 - ・ フレンチ
 - ・ 中華

※ぶどうとは関係ないが、ぶどうを連想させるような演出をしかける。(例えば、景観として)

- グッズショップ (お土産)
 - ・ コンフィチュール (ジャム)
⇒ フランスに加工施設 ⇒ 逆輸入

ぶどうの木の展開③：経営の多角化

● ショップの出店

- ・有名デパート・ショッピングモールへの出店（金沢駅百番街店・イオン御経塚店・片町店など10店舗）
- ・東京駅
- ・スカイツリー

● 銀座のアンテナショップ出店

- ・1階 ゴッズショップ
- ・2階 社交場（カフェ）

※なぜ、銀座に??

⇒（ネタに飢えている）ジャーナリストの立ち寄り
雑誌の記事提供（書いてくれると宣伝に）

ぶどうの木の展開④

●「食べるぶどう」⇒「魅せるぶどう」

ブライダル事業への参入

ぶどう棚を結婚式場として利用

【ぶどうの木のファンを作る】